

やまのかたりべ

第60章 竹村新道、南真砂岳から晴嵐荘へ

7月後半から8月のお盆過ぎの夏山のハイシーズンを毎年山小屋のお手伝いに行く。数えると…今年で五度目。今回は水晶小屋さんでお世話になることに。晴天の日が多く、夏山は登山者でにぎわっている。私がお世話になる裏銀座の山小屋宿泊者の平均年齢は60歳を超えるのではないかと思う。皆さま健脚のご高齢者である。裏銀座が好きで毎年訪れる方も……。私もその一人。

それぞれの夏山、素敵な思い出を持ち帰って頂けると嬉しく思う。

<ポイント1>

北アルプス「裏銀座」とは、烏帽子岳を起点とし終点は槍ヶ岳まで、およそ25キロメートルの縦走コースを指す。北アルプス「表銀座」とは、中房温泉を起点とし燕岳、大天井岳を通過し槍ヶ岳に向かう稜線コースを指す。

<ポイント2>

裏銀座コース全般にいえることだが、およそ標高2,500メートルを下ることのない約25キロメートル続く県境尾根を歩くと、いかにも北アルプスの中心部を縦走しているという豪華な気分になる。

全体の地質が花崗岩質のため、白い砂とハイマツのコントラストが美しく、三ツ岳手前のコマクサをはじめチングルマ、ウサギギクなどの高山植物が足元にゆれ、楽しい縦走を約束してくれる。

また、烏帽子小屋あたりでは望めなかった赤牛岳や水晶岳が、西下の黒部川支流東沢谷を越えて雄大に望まれるのも大きな見どころだ。

野口五郎岳の広々とした山頂は裏銀座コース中の最高点らしく大展望である。槍ヶ岳が左には急峻な北鎌尾根を、右にはややなだらかな西鎌尾根をのびし圧巻である。なお、五郎池がひっそりとたたずんでいる南西のカール地形もこの山の特徴である。

前述した高山植物のほか、ハクサンイチゲ、シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、ミヤマキンバイ、コケモモなどがある。(信州山岳ガイド参照)

8月24日(月)

前日に小屋の手伝いを終えた私。天気良ければ山の中でゆっくり一日過ごしてから下山しようと思っていたが、なんと台風14号発生し向かってきているとの事。また秋雨前線の影響もあり、明日から天気は下り坂という情報を耳にする。せっかくなら晴天の日気持ちよく下山したいという思いもあり、数時間悩んだ結果、本日下山する事を決める。今までお世話になった寢床を掃除し、ザックに荷物をぐいぐい詰める。押し込むと表現した方がいいぐらい適当な荷造りになってしまう。

9時30分 水晶小屋出立

一か月共に働き、寝食共に過ごしたスタッフと握手でお別れ。

私以外のスタッフは小屋閉めまでいるとのこと。

体調に気を付けて頑張ってください。

一か月、ありがとうございました～！！

この時既に南方面は厚い雲に覆われ始めていた。

(写真中央 水晶小屋)



いつもは交通の便など考え新穂高温泉に下山しているが、今回は高瀬ダム方面に下山。歩いたことのない竹村新道を下る事にする。振り返ると今、別れを告げた水晶小屋が小さく見える。この風景をみる度にすごいところに建っていると再認識する。



(一番右 水晶岳)



東沢乗越までやせた尾根を歩く。左斜面は茶色の岩肌が露出されている。右を見れば剣岳、黒部湖が…。本当に展望が素晴らしい。東沢乗越を過ぎると大きな岩が出没。数年前に通った事があるがすっかり忘れていた。ルートを探しながら岩の上を歩く。マーキングがしっかりされているので、迷うことは無いと思うが天気の悪い日は注意。

10時50分 裏銀座縦走コースと竹村新道に向かう分岐に到着

眼下に水が干上がって小さくなった五郎池が見える…。よくクマが出没するスポットとなっているが今回は遭遇する気配はない。逆に何処かで我々人間の事を眺めているかも…。

裏銀座コースから外れ、竹村新道へ。

既にこちらのコースにはガスがかかって来ている状況。天気が良ければ、硫黄尾根の奥に槍ヶ岳がカッコよく姿を現しているであろうに…晴天時は北鎌尾根も見えているのだろうか？

<ポイント3>

北鎌尾根とは、槍ヶ岳に登るバリエーションルート。ルートを探す技術はもちろん、岩に登る技術も必要とされるコース。

最初のトラバースを過ぎると広い稜線に。ここで小休憩。

チョコでエネルギー補充。

竹村新道はところどころやせ尾根の箇所、細かいガレた斜面がいくつかある。また強風によりハイマツが面白い形をしている。自然が作り出した芸術作品。

南真砂岳までアップダウンはあまりないが、南真砂岳の山頂直下から登りになる。



景色がよかったらこの稜線気持ち良さそう。また歩きに来よう！



(急斜面のガシタ登山道)



(南真砂岳は生憎の展望)

11時45分 標高2713メートル南真砂岳到着

山々の上部にはガスがかかっているため展望はほぼなし。大好きな裏銀座の山々の頂上は厚い雲の中に姿を隠した状況。また来るからね〜と挨拶し早々に山頂を後にする。

さてここからが本格的に下る口~~~~~ングコースに…。道標みて思わず気合いが入る。「長いです。気を付けて！」と書かれている。

ひたすら下る。ところどころに階段やロープが設置されている。途中お花畑も広がっているが、数箇所やせ尾根などところがあるので注意。ブルーベリーの実がなっていたので歩きながらお味見。

ん〜、おいしい！

下る下る…。樹林帯の中に突入。しばらく下ると、今度は湯俣岳に向かって登り返しがはじまる。登り返しがきついときいていたが納得。何せ樹林帯のため景色も楽しめず、ひたすら歩くのみ。このコース下山時に楽だと思つて使用する登山者もいるが、この登り返しを知らないと気持ちが凹みそう。

12時50分 標高2379m湯股岳到着

景観無し。樹林帯の中にひっそり道標が。不思議な山頂。

ここから晴嵐荘という竹村新道の登山口となる宿を目指し、さらに下りが続く。

麓が見えるとホッとするが…

まだまだ下の方。

展望台と言う標識があるが厚い雲に覆われた山々。

晴れた日は何が見えているのか？

と調べてみたところ、逆から登ってくると

ここで初めて「槍ヶ岳」が見えるとのこと。



眼下には湯俣川が。国立指定天然記念物となっている噴湯丘は見つけれず。
何処かにあるはずなのだが……



<ポイント 4>

高瀬溪谷の噴湯丘は、長野県大町市の湯俣温泉付近にあり、タクシーの終点から平坦な道を 10 km ほど歩くことになる。噴湯丘という名前がついているが実際は噴泉塔に成長している

温泉が自然に湧き出す場合、天に向かって高く吹き上げたり(噴泉)、一定の時間間隔で吹き出したりする(間欠泉)など、特殊な湧き出し方をすることがある。また、温泉が湧き出す場所付近には、噴泉塔、噴湯丘、珪華や石灰華ドーム、膠状珪酸(こうじょうけいさん)、球状石灰華、鉢状珪石(じじょうけいせき)、北投石など、さまざまな温泉沈殿物を残すことがある。温泉関係では、このような現象や生成物が、「自然界における希少性を有し、学術上の価値が高い」として天然記念物の指定対象となっている。

(極楽湯 ホームページ 第 32 回コラム参照)

14 時 00 分 晴嵐荘到着

到着するころには膝が笑っている。足の筋力がかなり落ちてしまっているようだ。明日からひどい筋肉痛になる予感…。

晴嵐荘の庭先では既に数人の登山者がビールで乾杯している。

ん〜汗をかいた後のビール、美味しい事でしょう。

水晶小屋でお手伝いしていた時に、清嵐荘のスタッフの方が遊びに来てくれた事もありご挨拶に受付へ。遊びにいらしたスタッフの方が笑顔で迎えてくれる。入浴後、しばしスタッフの方と歓談。この周辺は紅葉の時期がお勧めとのこと。宿は 10 月末で終わってしまう様だが、秋のシーズンに温泉旅行で訪れるのもいい。

私の今年の山小屋生活は終了。短い期間だったがお世話になったスタッフ、出会った登山者の方々、皆様に感謝。

また下山後も仕事に励みます！宜しくお願い致します！！

<ポイント 5>

湯俣温泉 晴嵐荘 営業 7/1~10 月末まで
温泉有り、外来入浴も可能(一人 500 円)
テント場あり。

詳細は、晴嵐荘のホームページを参照

<http://seiransou.com/>

水晶小屋出発 9 時 30 分

竹村新道分岐 10 時 50 分

南真砂岳 11 時 40 分

湯股岳 12 時 50 分

晴嵐荘 14 時 00 分



(雲ノ平方面から見た水晶岳)